

運動会



平成23年11月11日太田正氣記念館（体育館）で運動会が開催されました。開会の宣言で始まった運動会は、盛りだくさんの競技を行い大変な盛り上がりを見せていました。種目の中には、車椅子の方が参加できるゲームも用意されており、会場に来られた患者様、皆様が楽しめる運動会となりました。我々職員にとっては、赤白関係なく、参加された患者様の声援と笑顔が何よりの宝物です。皆様のよい思い出になって欲しいと願っています。

第11回障害者全国スポーツ大会 デイケアチーム出場!!



試合結果

	25 - 27	
兵庫県1	25 - 21	岡山県2
	16 - 25	

平成23年10月22日に山口国体で行われたソフトバレーボールの試合結果をお伝えします。第1セット序盤から一進一退の攻防でした。デュースまでもつれ込みましたがセットを落としてしまいました。続く第2セットも素晴らしい攻防で当院がセットを取り返しました。しかし最終の第3セットは岡山県の勢いに押され負けてしまいました。結果1 - 2で負けてしまいました。素晴らしい試合だったと思います。選手達も晴れやかな顔で大会を終えました。応援して下さい。皆様本当にありがとうございました。

基本理念

『人間愛に満ちた医療と愛情こもる看護・介護』



医療法人社団正仁会

明石土山病院・介護老人保健施設希望
つちやま訪問看護ステーション・精神障害者生活訓練施設みどり寮
精神障害者福祉ホームB型マックナイトホーム



〒674-0074

兵庫県明石市魚住町清水2744-30

TEL:078-942-1021

FAX:078-941-1573

E-mail:info@athp.jp

ホームページもご覧下さい

PCサイト <http://www.athp.jp/>

携帯サイト <http://www.athp.jp/i/>



Midori

~みどり~

平成24年1月1日発行
新年号みどり



謹賀新年

旧年中はお世話になり、誠にありがとうございました。
本年も何卒宜しくお願い致します。

理事長・院長 太田 正幸

今年は辰年です。辰とは漢書「津暦志」によれば、「動いてのびる」・「整う」の意味とし、草木が盛んに成長し整った様子を指すといわれています。

こういう良い年に、昨年55周年を無事に迎えた当法人としても、今年も患者様方、利用者様方、ご家族方のために、誠心誠意努力を続けていきたいと存じております。

今まで計画倒れになっていた、急性期病棟も今年中には着工したいと考えておりますのと共に、医療・看護・介護の質の向上を図って参りたいと切に願っております。

また工事が始まりますが、患者様方に快適な治療空間をご提供するためのものですので、皆様方のご理解を賜りますよう、お願い申し上げます。



平成23年を振り返って～絆(きずな)について～

医師 平野 吉彦

平成23年はみなさまにとってどのような年だったでしょうか。私個人的には例年通りかわりなく日々の仕事にいそしむ1年ではありましたが、日本にとって大きな出来事としては、やはり東日本大震災があげられます。当日にニュースで惨状をまのあたりにし、不謹慎ですがまるで映画を見ているような錯覚におちいるほど非現実的であり、しかしなんととも言えない不安をおぼえたのを思い出します。通院患者様のなかにも、TVで被災地の様子を見て調子をくずされた方もいくらかいらっしました。

さて、その後の復興に際し、“絆”という言葉が盛んに聞かれるようになりました。年末の流行語大賞へのノミネートや、「今年の漢字」にも選ばれた通り、これほど“絆”が注目されたことは過去になかったでしょう。辞書で調べますと、「断つことのできない人と人の結びつき」と書いてあります。語源は平安時代からあった犬や馬などの動物をつなぎ止めておく綱のことであり、転じて家族や友人など人と人を離れがたくしている結びつきを言うようになったとのこと。語源や、もともとの意味は、やや“無理につなげられている”といったニュアンスも入っているように思いますが、それほど強く、人と人は結びついているんだということなのでしょう。有名な“甘え”という言葉同様に、英語では“絆”にきれいにあてはまる言葉が無いようです。他にも“運命の赤い糸”などという言葉もあるように、日本人は昔から、目に見えない人と人とのつながりを大切にしてきたことが分かります。阪神大震災以降に、ようやく国内でも注目され体系化された心のトラウマの治療でも、まずPTSDにならないようにする一番大切なことは、孤独になる状況でできるだけ避けること、つまり“一人ではない”ということを感じられるかどうかということです。これこそまさに、“絆”ではないでしょうか。以前からあった“絆”という言葉が、個人的には少しやすっぽくとらえていた節もあったのですが、生き生きと響いてくるようになりました。

話はかわりますが、フェイスブックというものをご存知でしょうか。日本でもいまや1000万人が参加しています。ソーシャルネットワーキングサービスの一つで社会的ネットワークをインターネット上で構築するものです。友達を登録し、それぞれが自由に日々のできごとや意見や情報を書いたり写真をのせたりして、それに対してまた、自由にコメントしたりするものです。そこで、かいまみていて興味深いのが、書かれていることの多くが、

(3ページに続く)



(2ページから続く)

他愛も無いといったら失礼ですが、現実の日常の会話に近いもしくはそれ以上に何気ないことだということです。例えば「今日は を食べた。すごくおいしかった。」 「いいね。私も食べたい。」などです。このような会話が頻りにインターネット上で行われています。人と人の距離が近くで支え合っていた、ご近所づきあいが密であった“古き良き村”のかたちを少し思い起こさせないでしょうか。この人と人がつながる道具が、個人主義の国、アメリカで生まれて世界に広がったということもおもしろいですし、グローバル化して地域のコミュニティが壊れたというものの、形をかえて新たにコミュニティが作られていっていることも、世界情勢的に不安定な時代に合っているように思います。これもやはり“絆”を求める姿に見えます。(余談ですが“甘え”という言葉が海外で“AMAE”として広まったように、フェイスブックという名前も“KIZUNA”にかえてはどうでしょうか笑。)

以上、“絆”について少し考えてみました。私も精神科医療をになう者の一人として、日本がこれまでも大切にしてきた“絆”を患者様と一緒に確認したり、また新たに結べる場を少しでも提供できればと考えている今日このごろです。

創立55周年記念式典・祝賀会

平成23年11月1日ホテルオークラ神戸(平安の間)で医療法人社団 正仁会 創立55周年記念式典・祝賀会が行われました。数多くの来賓の方々にご出席いただき大変盛大な式典となりました。理事長の挨拶ではご来賓の皆様始め、地域の皆様、職員の協力に対し感謝の意を述べられました。

元来、「この病院の存在意義は患者様があってのものであり、できるだけ多くの患者様を救う為にあるものだ」という強い信念のもと、これからも最良の医療と看護・介護をご提供していき、60年、70年と歴史を刻んで参りたいと思います。

